

清流

「通知表」から大人が学ぶこと

「松のことは松に習え、竹のことは竹に習え」(松尾芭蕉)

解釈としては、「松のことが知りたければ、松に聞けばいい。竹のことが知りたければ、竹に聞けばいい。人に聞くよりも、直接その物に向き合った方が、物の本質は見えてくるものである。」となるでしょうか。俳人らしい、奥の深い言葉です。

では、子どものことはどうでしょうか？…理解しているようで意外に知らない面が多いようです。今日、担任から子どもたちに通知表をお渡ししました。この通知表から私たち大人が学ぶことは多々あるのではないかと思います。「子どものことは子どもに習え」…子どものことがたくさん記されている通知表を介して大人は何か学べないでしょうか。

まずは、学校としてですが、子どもたちの学習の結果は、私たち教師にとっては指導の結果であることを深く認識したいと思います。私たち教師の世界には「指導と評価の一体化」という言葉があります。「指導したことを評価し、評価したことを指導に生かす。」と説明すればより分かりやすいかと思います。したがって、今回の通知表の内容は指導した結果をお伝えしたものではありません。私たちにとっては、今後の指導改善に生かすためのものでもあります。また、学力を向上させるためには、指導技術を身に付けなければよいというものではありません。子ども一人一人に様々なつまづきの原因があります。それは、個々の能力だけではなく、学校や家庭における人間関係、生活習慣、環境条件と様々です。これらの把握、分析、改善なしに指導技術だけでは子どもに力はつきません。通知表には、それらの一端も記されています。

つまり、通知表は「教師の教育指導反省簿」と位置づける必要があるということです。

次に、ご家庭のことで考えてみましょう。まずは、しっかりと読んでいただき、子どもの学校での様子を少しでも理解していただくことが大切だと思います。そして通知表には、必ずその子の伸びた点や良い行動等が書かれています。そのことを具体的にほめていただくことが効果的です。人間的な成長も含めて努力した点をしっかりと評価していただきたいし、そのことで子どもは、さらに大きく成長すると考えるからです。加えて、今後努力してほしい面が書いてあることもあると思います。その場合は、しっかりと励ましていただければと思います。

学校と家庭がベクトルを揃え、同じ方向性でほめ、励ましていくことで子どもは変わると思います。

また、通知表の内容を共有し、子どもの成長の阻害要因を学校と家庭で協力して改善していくことも重要です。

阻害要因の一つに「規範意識・他者意識の不足」があります。何度かお伝えしておりますが、本校の児童は良い面がたくさんあるのですが、課題を抱えていることも事実です。平気で廊下を走る、トイレのスリッパを並べようとしない、忘れ物が多い、そうじをさぼる、時間が守れない、このような子の学力はつきにくいし、人としても順調に成長していけない面が出てくると思います。

規範意識や他者意識は一朝一夕に身につくものではありません。逆の視点から見れば、子どもたちのこれまでの生活経験すべてが、これらの意識不足を生んでしまっていると言えるでしょう。

いよいよ明日から夏休みです。夏休みは家庭での生活が中心となり、子どもたちにとって日頃できないようなことができる貴重な機会です。月並みではありますが、まずは、家庭でのお手伝いをさせたり、規則的な生活を意識させたり、日頃できないような体験で子どもの心を耕したりすることで、直接的な規範意識や他者意識の醸成だけではなく、結果的に成長の阻害要因を少しでも軽減できるような夏休みにできたらと願っています。

加えて、個人的には「家庭での会話と笑い(一家団欒)」も大切なキーワードだと思います。

こう考えると、通知表は「教師の教育指導反省簿」と同時に、「保護者の子育て振り返り簿」とも言えると思います。